

第2学年・学年だより

第 6 号
令和2年5月1日（金）
調布市立第三中学校
第 2 学 年

風のみち

柳のようにしなやかな心で

桜の季節も終わり、窓を開けていると最近ではさわやかな風が心地よく吹き込んでくるようになりました。先生たちも4月に入ってから自宅勤務をするようにと通達があり、なかなか思うように三中来られず、黙々と自宅で教材を作る日々が続いています。

そんな毎日を送る私ですが、今日はかつて高校生であったころ（もあったのですよ！）の話をさせてください。私の高校は静岡県の県立高校で、入学したころには94年の学校史を刻む古い学校でした。図書室ではなく、吹き抜けの二階建て地下付きの図書館棟があり、閉架（貴重で貸し出すことが困難な本を保管しておく場所）には、作家となった歴代のOB、OGの寄贈した本が所狭しと置かれていました。もともと本が好きであったため、その閉架の独特の古い紙の匂いは、私にとって魅力的なものでした。また、その長い歴史の中で各界に羽ばたいていったOB、OGは、度々講演を行いにも来てくれました。今だから白状しますが、私は座ってじっと話を聞く、ということがたいそう苦手で、ともすれば睡魔と戦う羽目になる講演会が苦手でもありました。（失礼だから一生懸命聞こうとするのですが、とにかく繰り返すと小難しい話題が多かったのです！）偉い人の話は、どうしてこうも長いのだろうと、床に付けた尻をもじもじさせながら思っていたものです。しかし、たくさんの講演を聞いていた中で、今でも鮮明に覚えている人がいます。



いつも堅い話の多い講演でしたが、その日の講演は、少しコミカルにも見える動きで、優しいような男性が、マイクの前に立ちました。素早い動きで何か言いながらパソコンを立ち上げ、たいして話すこともなく動画を流し始めました。それからの時間はあっという間でした。その場で流された映像は、“ドンタコス”や“バザールでござーる”（皆さんは知っているかしら？）などよく流れているCMばかり。

やがてある程度流し終わると、「これを作った時にはね、」とエピソードを語られ始めました。曰く、夜中に会議室にいい大人が集まって、言葉遊びをしているうちに、フレーズが決まり、それに合わせて体を動かしているうちに、しっくりくる映像が決まったとのこと。実際に、そのCMの動きを舞台上でスーツを着た中年の男性が一人で行うのですか

ら、おかしくて仕方ありませんでした。「こんな感じでね」と言いながら、「これをみんなで明け方の会議室で踊ったんだよ」と笑いながら屈託なく主張する笑顔にこちらまで笑みがこぼれる始末。普段は、静まり返っている講演会でしたが、その日は笑いに満ち溢れていました。

しかし、話が進むうちにハッとさせられました。納期（制作物などを取引相手に届ける期限）まであとわずかという絶体絶命とも呼べる状況の中、それすら楽しみながら、限られた会議室という空間の中で、自由な発想で物事を創造していく。実際、そのCMの計画を完成させるために、明け方になっても意見を出し合っていたそうです。（今ならば、「働き方改革！」と言われてしまうそうですが。）苦労を苦労とっていない姿が、その言葉からはっきりと伝わってきました。そして、そこで作られたCMや歌は、紛れもなく人を笑顔にさせるパワーに溢れていました。

見方を変え、限られた状況に左右されない柔軟な思考回路でいること。無理だと思わずバカバカしいと思っても何でも試してみること。強い風の中でも立ち続ける柳のように、しなやかでいること。仕事をしていく上で、そして、生きていく上で一番大切なことはそれらだと笑顔で教えてくれました。

2月から徐々に拡大していった新型コロナウイルスによる影響は、日を迫うごとに世界全体で増えています。外出自粛が叫ばれている現在の状況では、気軽に友人と会うこともままなりません。ニュースに溢れているのは、ネガティブな情報ばかりで、いつ明けるとも知れない闇夜を手探りで歩いている気分になります。

3月の卒業式、4月の入学式と卒業生や新入生と教員、保護者のみの参列となり、先輩の最後の雄姿を見ることも、今年の1年生の初々しい言葉を聞くこともできませんでした。いつものようであれば、できたはずのこと、会えたはずの人、味わえたはずの思い…。これからの生活の中でも、我慢する時や失われていく機会もあるかもしれません。

しかし、そのような限られた状況の中でも、立ち上がろうとする人、周囲への配慮を忘れない人がいます。支援の手を差し伸べる人や、その人たちに感謝を示そうとする人もいます。

自分で行動できる範囲やできることは、多くはないかもしれませんが、一見無駄だと思われることもあるかもしれません。しかし、くだらないと思っていたことの積み重ねが、大切な未来に繋がっているかもしれません。

おかれた状況にめげず、「人事を尽くして天命を待つ」ことで、今を積み重ね、一步一步また素顔で笑いあえる日に近づいていきましょう。

※ここで話した高校のOBは、他にも素敵な作品や番組を手掛けています。興味のある人は調べてみてください。誰のことを指し示しているのかたどり着けるでしょうか。因みに、旧1年6組の本棚には、この人の書いた本が複数冊置かれていました。

文責：島津